Beginn des freundschaftlichen Austauschs

第1章

友好交流のはじまり

友好都市提携・歓迎式（1992年8月19日）

友好交流のはじまり

友好協定の歴史

ヘルナルス区と府中市との交流は、1992（平成4）年に始まりました。

府中市では国際化が進む社会に対応するため、1987（昭和62）年11月に姉妹都市検討協議会を組織し、交流先となる都市を調査・研究した結果、世界各地の9都市が友好都市の候補地として挙げられました。

最終的に候補地を3都市に絞り、現地調査などを踏まえてオーストリア共和国のウィーン市を最終候補地と決定しました。

ウィーン市が選ばれたことには理由があります。1991（平成3）年に開館した府中の森芸術劇場のホールの一つが「ウィーンホール」と命名されたこと、同年に日本・オーストリア修好120周年を記念してウィーン市で開催されたコンサートに府中市ジュニアアンサンブルが招待され演奏するなどのつながりがあったこと、また歴史と伝統が豊かであるなど府中市との共通点があったことです。

ウィーン市には23の区があり、その中で府中市との交流に積極的な意向を示したヘルナルス区との交渉を進め、友好協定の締結について合意に至りました。

1992（平成4）年8月19日、ヘルナルス区からローベルト・プレーガー区長（当時）を府中市にお迎えし、友好都市提携・歓迎式が行われました。

翌年には府中市から吉野和男市長（当時）がヘルナルス区を訪問し、温かい歓迎とおもてなしをいただきました。

友好協定の締結以来、両区市は様々な交流を重ねてきました。ヘルナルス区からの少年サッカー、バドミントンチームの来訪によるスポーツ交流、音楽団の来訪や府中市の合唱団、府中囃子のヘルナルス区訪問による文化交流など、両区市民の参加による交流は多岐にわたります。

中でも、交流の中心として行われているのが青少年ホームステイ相互派遣事業です。言語や生活文化が異なる海外での生活や人々との交流を通して、青少年の異文化に対する理解や国際感覚を深めることを目的として、府中市からの派遣は1994（平成6）年に、ヘルナルス区からの派遣は2000（平成12）年に開始されました。府中市からの派遣は毎年実施され、派遣生の総数は2022（令和4）年現在までに147名に上ります。これも、派遣生を受け入れてくださる両区市民の皆様の温かいおもてなしにより継続できているものと感謝しております。

また、2019（令和元）年には日本・オーストリア修好150周年にあたり、ヘルナルス区からの友好訪問団によるオーストリア料理講習会や、ウィーンを拠点に活動する音楽団によるオーストリア音楽演奏会を府中市で行いました。

新型コロナウイルスの感染拡大により、青少年ホームステイ相互派遣などの交流は見合わせていますが、両区市民の皆様の参加による交流を再開できる時期に向けて、市担当としての準備を進めております。

府中市都市交流担当

吉野市長（当時）の指揮による警察音楽隊の演奏（1993年5月）

Beginn des freundschaftlichen Austauschs

シュテファン寺院前の集合写真（1993年5月）

ヘルナルス区少年サッカーチームとの交流試合（1993年8月）

プフェッファー区長（当時）による講演会（2004年4月）

ヘルナルス区友好訪問団によるオーストリア料理講習会（2019年10月）

ホイリゲでの歓迎パーティー（2003年6月）

市HP「日墺修好150周年記念イベント」▶

友好交流のはじまり

息長く　幅広く

1992（平成4）年1月、当時府中市助役の職にあった故・杉田道雄さんは、数名の職員と共にウィーンを訪れていました。今も様々な交流場面で活躍されているイリーニさんの案内でヘルナルス区へ。当時の区長プレーガーさんにお会いできたとき、杉田さんは、心の奥で大きく吐息したに違いありません。市民参加の協議会などのいくつもの手順、長い時間、道程の末に辿りついた友好都市交流は、ここから始まりです。この年の4月から、私は二人の同僚とともに手探りで考え「基本とすべきは、息の長い、幅広い交流」との結論を得、事業の具体化にとりかかります。当初は、多くの市民に知っていただき、多くの方々に参加していただくことが主眼となりました。様々な事業が案出され、子どもたちのための絵葉書交流、それぞれの町の様子を「季節だより」として広報に掲載するなどの事業が、毎年協議され、実行されて行きます。

協定から経緯をたどってみます。上司から促され、式典などの具体的な協議のため私がヘルナルスを訪問できたのは、6月になっていました。区長、ブレンナー副区長、そして事務責任者のシャンブレックさんにお会いし、温かなおもてなしの下、打合せを終えて帰国の途についたとき、感謝と安堵で涙する思いでした。8月、区長ご夫妻をはじめ9人の方々に来訪いただきます。この中には、このために編成された若人のクァルテットも含まれていました。提携式典、記念植樹、交流演奏会、友好都市紹介展、レセプションなどが多くの方々の参加を意識して企画され、随所で、区ゆかりのシュランメル音楽が演奏されました。

翌年5月、府中市長の訪問が実現します。記念に贈呈された市民の手による「書」、その一つは、区会議室に掲げられています。この訪問に伴い派遣されたのが、民謡連盟の代表と市出身のソプラノ歌手によって構成された「日本の歌使節団」。ホールや街頭での演奏は、大喝采でした。

翌年、区祝祭週間に府中市として参加します。毎年5、6月にウィーンで開催されているこの事業、区のテーマに「友好都市との出会い」が掲げられたのです。募集に応じた多くの市民から、絵画、手・工芸などの作品が寄せられ、展示する会場は数か所に。エルタライン広場には、鳥居、日本食の出店とさながら日本祭り。この時派遣されたのは、府中囃子保存会の方々

府中市民による「書」の記念贈呈（1993年5月）

民謡連盟による演奏（1993年5月）

府中囃子保存会の演奏を街中で披露（1994年6月）

で、二つの流派の混成チームでしたが、時間をかけた練習の成果で、見事な演奏が披露されました。ウィーン市や、ヘルナルス区の要人、日本国大使、多くの区民を前にしてのホールでの演奏、街頭での演奏は大評判となり、ラジオのインタビューを受けるほど。

1996（平成8）年には、在オーストリア日本大使館の呼びかけに応じて参加した「ドナウ河千本桜プロジェクト」。市民の手で募金活動が行われ、その一部が区内に植樹された数本の桜となっています。また、同年5月、ヘルナルスから友好訪問団が来訪され、吉野市長自ら神輿を担いだ大國魂神社の例大祭を体験されました。このとき、府中第九中学校、図書館、生涯学習センターの施設間友好協定が締結されています。

翌1997（平成9）年には、ヘルナルス区図書館から送られた図書などを基に、中央図書館にウィーンコーナーが設置され、生涯学習センターでは、区から派遣された講師によって講座、講演会が開催されました。この年の5月には、62名もの市民友好訪問団が区を訪問し、テニス、日本料理講習会などでの交流が実現しました。

息の長い交流の代表は、青少年ホームステイ相互派遣事業。1994（平成6）年から開始され、多くの若人がホームステイにより異国の家庭生活を体験しています。私が担当を外れてからのことですが、この事業が一時期中断かと思われる時期がありました。この時、故・杉田さんは、プレーガーさんと相談され、市民の手による事業の継続を決断します。有志を募り、府中国際友好交流会を組織して、数年間派遣事業を担い、その後現在の市と交流会とが共催する形での事業へと継続されたのです。また、これもだいぶ後のことですが、東日本大震災の際、ヘルナルスの皆さんが募金活動をされ、被災地に贈られたことを忘れることができません。

当初の担当をさせていただいた事業が、多くの方々の支えによって、他に例を見ないほどの実績を収めている。感謝の極みです。この事業の発展に尽力された故・杉田さんがウィーン市から表彰され（Goldener Rathausmann）、現在、ヘルナルス・府中友好協会会長を務めておられるプレーガーさんが、日本国から叙勲（旭日双光章）の栄誉に浴されたことは、この事業の誇るべき証左として記録されるべきものと感無量の思いです。

コロナウイルスによって自粛の日々が続いている今、思いを次の歌に託します。

感染の収まりゆくをひた願い　出で立つ園に梅の実あをし

（2021年歌会始　皇后陛下より）

元府中市都市交流担当／NPO法人府中国際友好交流会理事

東 千惠藏

友好交流のはじまり

それは、こうして始まったのです！

1991年のある日、ヘルナルス区の区長であった私は、当時、東京にあったウィーン代表部を通して、1通の手紙を受け取りました。それには、「東京の某市が、ウィーン市内で友好都市を探している」と書かれていました。コスモポリタンを自称する私にとっては、何の問題もありません。きっと、日本とウィーンの間で親書が取り交わされるくらいのことだろうと、私は推測していました。ところが実際は、全く違っていたのです。

1992年の初めには、早速日本からの代表団が私を訪ねて区役所に来られました。当時助役を務めておられ、団長でもあった故・杉田道雄氏が「ヘルナルス区を視察させていただいたが、友好都市として適していると思われる」と、私におっしゃいました。私の驚愕はとても大きなものでした。と同時に、多くの問いが頭の中を駆け巡りました。

相手の期待するところは、一体何なのか？

物事をどのように処理していけばよいのだろうか？

私に自信のないことは、当時通訳者であったドーリ・イリーニ氏にも隠せないところとなりました。有り難い事に、彼女の親切な人となりが大きな助けとなり、私は初頭に受けた不安から立ち直ることが出来たのです。そして、「府中市」という、この東京都の一自治体で、友好協定の調印式をすることにまでに話が進みました。イリーニ氏は、その調印の際には、是非お土産を持参すべきことを、私に教えてくれました。日本では、訪問の際には、お互いが必ずお土産を持参するしきたりであるとのこと。そこで、お土産には、ボヘミアンクリスタルガラスで作られた杯が選ばれました。詳細な論議の結果、両市区の関係を促進し、文化、教育、そして経済の分野での交流を可能にし、それらを強化していくことが決定されました。

1992年8月19日に、当時の市長であった故・吉野和男氏と、ヘルナルス区長であった私との間で、両市区の友好協定が提携・調印されたのです。すみずみまで行き届いた準備・企画、それらの遂行、想像をはるかに超えた歓迎、そして祝祭的な調印式に、私は深い感銘を受け、この時にすでに、無限のおもてなしを体験することとなったのです。故・吉野市長には、ひと目会ったその瞬間から親しみ深い印象を持ちました。常に丁寧で、ちょっとちゃめっけのある笑みをたたえておられました。当然のことながら、問題もありました。と言いますのも、吉野氏は日本語のみ、私はドイツ語のみしか話すことが出来なかったからです。しかし、これも通訳の助けを借りて、問題解決に至りました。そして、時が経つにつれて、私達は目で話をすることに慣れ、これがまたなんとも上手く行くようになったのです。

1993年初夏、吉野氏がヘルナルス区を訪問されました。この際、友好協定締結を記念して植樹された銀杏、この銀杏の記念銘板の除幕式が行われました。この訪問団に府中市から参加していたコーラス団が歌曲を披露してくださいました。そして、式典の後には記者会見も行われました。ヘルナルス区での祝祭典のハイライトの一つは、アルスツァイレの老人ホームで開かれたコンサートでした。コーラスの皆さんが、日本の伝統楽器である三味線や尺八の伴奏で様々な分野の日本の歌曲を紹介・披露してくださいました。また、訪問団は後日、ウィーン市庁舎に出向き、当時ウィーン市長であった故・ヘルムート・ツィルク博士を表敬訪問いたしました。

1994年、ヘルナルス区祝祭週間では、メインテーマに府中市を取り上げ、杉田氏が日本からの訪問団に同行され、ヘルナルスを訪れました。この訪問団には、府中市からの市民グループ「府中囃子」が参加しており、伝統的なお囃子と踊りを披露、ウィーン側からは、ブラスバンドが演奏を披露しました。そして、府中市民の芸術作品の展覧会が、この祝祭週間に完璧な色を添えることとなりました。この祝祭週間には、当時の市長であったツィルク氏も足を運んでくださいました。

生涯学習センター横の平和の森公園に菩提樹を植樹（1992年8月）

Beginn des freundschaftlichen Austauschs

友好関係の重要な企画として青少年ホームステイ相互派遣事業が取り上げられました。まず、子ども達の文通がスタートしました。1994年より毎年府中市からは高校生がヘルナルス区を訪れ、ホストファミリー宅で滞在し、ウィーンの日常を体験しています。2000年からは同じプログラムが、ヘルナルス区の高校生に対しても提供されています。更には、ヘルナルス区図書館、ヘルナルス区成人学校、区内のハリルシュガッセ小学校、ゲブラーガッセ・ギムナジウムが、それぞれに適した府中市内の学校及び施設と友好関係を築いています。定期的に様々なイベントも開催されています。この記念誌はその概要を伝えるべく作成されました。

確かなことは、様々な活動を通じて、これらに参加する人たちが一人残らず、異文化との接触から大きな恩恵を受けているということです。友好関係は観光事業ではありません。私達はお互いを知り、当たり前のことに疑問を持ち、新たな発見に気づく機会の大きな可能性を持っているのです。そして、これらの事柄を通じて、私の日本像も変わりました。ヨーロッパでは、私達は親切心や笑顔をいつも正しく理解しているわけではなく、時にはそれらを「外面」と捉えがちです。でも、それは私達の思い違いです。日本では、私達は、友情、真心、素直さ、相手と相手の生活に大きな興味を抱き、それらを尊重することを経験したのです。

元ヘルナルス区長/ヘルナルス・府中友好協会会長
ローベルト・プレーガー

（左から）プレーガー会長、吉野元市長、野口前市長、高野市長

友好交流団体

市民レベルでの交流を促進することを目的とした団体（ヘルナルス・府中友好協会、NPO法人府中国際友好交流会）が設立されました。友好交流の中心である青少年ホームステイ相互派遣事業は、この両団体を中心に実施しています。

府中国際友好交流会

府中国際友好交流会は、ウィーン市ヘルナルス区との友好交流活動の促進を目的に1999（平成11）年4月8日に任意団体として発足し、同年11月5日に特定非営利活動法人としての認証を受けた市民団体です。

その活動の第一は青少年ホームステイ相互派遣事業です。

府中からは、毎年夏休み期間中に、高校生年代の若者をウィーンに派遣し、現地のホストファミリーにお世話をいただき、貴重な体験をさせていただいています。派遣生は面接により選抜し、事前に5回程度、ウィーンとオーストリアに関する基礎知識の研修を行います。訪問後は、ホームステイの締めくくりとして派遣生の報告書をまとめて刊行し、報告会を実施して、その意義を確かなものとしています。

一方、ウィーンからのホームステイ派遣生の受け入れには、会員及び市民に呼びかけ、ホストファミリーの募集を行っています。滞在中は派遣生が安心して楽しく過ごせるよう、ホストファミリーと協力して派遣生のお世話をさせていただくほか、見学・研修などの案内や講師を務めるなどの支援をしています。

次に、友好訪問事業があります。ウィーンからの友好訪問団の来訪にあたっては、来訪された皆様に、意義ある日程を少しでも楽しく過ごしていただけるよう、市当局と協力し、準備の段階から滞在中の公式行事まで、必要な支援をさせていただいています。また、府中からウィーンへは、主に府中市主催の訪問団に同行していますが、当交流会としても、会員や市民から参加者を募り、独自の友好訪問を企画・実施しています。

こうした相互訪問は、単なる観光旅行以上にお互いが直接ふれあう機会を持つことができ、お互いの理解を深め、友好の絆を一層強くするために役立っています。

このほか、フェイスブックを立ち上げたり、毎年恒例となっている市民桜まつりや商工まつりなど府中市内の各種イベントに参加してウィーンの紹介や、ホームステイの案内を行うなど、友好交流活動を広く市民に知っていただき、理解していただくための活動をしています。イベントへの参加の際は、模擬店を出店し、活動資金の調達を兼ねた物品販売も行っています。

さて、府中国際友好交流会の設立には、次のような経緯がありました。

1998（平成10）年当時、それまで府中市の行政の主催で5回にわたり比較的円滑に実施されていたウィーンへのホームステイ派遣事業が、府中市の財政難からその継続を見直す動きが出てきた時のことでした。当時府中市助役の公職にあった杉田道雄氏は、この動きに対して、事情はともあれ両区市の親善交流と青少年の健全育成の将来の発展にも大きく影響するのではないかとの危惧を抱きました。そして、もし行政による事業継続が困難となった場合には、民間＝市民の力によってでも継続することが必要ではないかと考えていました。

そこで、公務でヘルナルス区を訪問していた折、当時のヘルナルス区長ローベルト・プレーガー氏に、「最悪の場合、民間の力で派遣した時にも受け入れて下さるか。」と確認したところ、「困ったときほど友情が大切だ。」と答えていただいたとのことです。

市民桜まつりでの展示

市民桜まつりでの出店

◀府中国際友好交流会FACEBOOK

この時のプレーガー区長の言葉は、杉田氏の大きな支えとなりました。

その後、府中市の行政内部での検討において、事業存続のための適切な方策が見いだせず、事業の廃止が決定的となったとき、杉田氏は、市民の力で事業を継続することを決意します。そして有志を募って推進母体の設立に奔走し、立ち上げたのが府中国際友好交流会です。

設立の年の8月には、早くも、自らの手で企画、募集、選考、研修等、すべての準備を整え、独自の第1回青少年ホームステイ派遣事業を実施しています。

交流会独自での派遣事業は2001（平成13）年まで3回実施されましたが、市民の手で存続の危機を乗り越え、途切れることなく、事業が継続できたことには、単に青少年ホームステイ派遣事業の存続だけの問題ではなく、以後の両区市の友好交流全般のあり方にも影響を及ぼす大きな意義があったのではないでしょうか。

その後、青少年ホームステイ派遣事業については、友好協定締結10周年記念の2002（平成14）年に、府中市から改めて資金援助の申し出があり、以来、この事業は、府中国際友好交流会と府中市の共催で実施することとなりました。

また、ヘルナルス区との友好交流全般においても、行政と市民がそれまで以上に緊密な連絡を取り、力を合わせて取り組む体制が整い、今日に至っています。

ちなみに、杉田氏は、自ら主唱して立ち上げた府中国際友好交流会の事務局長を長い間務められ、会の運営はもとより、両区市の友好交流の発展に尽力されましたが、2020（令和2）年1月、惜しまれながら旅立たれました。

プレーガー元区長は、公職を去られてから、有志の方々とヘルナルス・府中友好協会を立ち上げられ、その会長として、お元気に活躍しておられます。

お二人とも、公職についておられた時から、国際交流に理解を示され、行政担当者としてばかりでなく、一人の市民としても交流活動に熱心に取り組まれ、その進展に尽力してこられました。その功績が公にも認められ、杉田氏は2015（平成27）年にウィーン市から「Goldener Rathausmann」を、また、プレーガー元区長は、2021（令和3）年に日本国から旭日双光章を受章されています。

ヘルナルス区訪問団の二重橋見学（2014年10月）

一般に、都市交流の多くは、行政主導で始められますが、そのままになり市民サイドでの盛り上がりに乏しい場合は、いつの間にか立ち消えていくという例をよく耳にします。

ヘルナルス区と府中市の場合は、30年という長期にわたり、良好な友好関係が保たれてきました。これは、行政と行政の公式の交流活動に加え、本来の主体である市民の関心が高く、双方が相携えて様々な困難を乗り越え、途絶えることなく交流活動を展開してきたからこそに違いありません。

そのことを忘れることなく、私たちは、これからも多くの仲間を語らい、両区市の友好交流の進展に力を尽くしていきたいと考えています。

NPO法人府中国際友好交流会副理事長
吉永 茂興

ヘルナルス区派遣生との夕食会（2016年度）

ヘルナルス・府中友好協会

ヘルナルス・府中友好協会メンバー

1992年に府中とヘルナルスの友好協定が締結された後、1999年に当時の杉田道雄助役（故人）がNPO法人である「府中国際友好交流会」を設立しました。この団体は、当初から青少年ホームステイ相互派遣事業の実施において重要な役割を果たしてきました。

ヘルナルス側では、区長のローベルト・プレーガー氏が引退した後、1997年に友好委員会が設立されました。後任のハンス・メンチク氏と協議して、プレーガー氏が府中とのあらゆる接触において区長をサポートするべく、友好委員会の会長役を引き受けました。この組織には、すべての政党の代表が参加していました。長年にわたり、府中国際友好交流会と友好委員会の両者による大きな支援のもと、様々な施設と共に多くのプロジェクトが実施されてきました。

その後、2008年に「ヘルナルス・府中友好協会」が設立されました。以来、ローベルト・プレーガー氏が設立会長として協会の指揮を執っています。協会の理事会は、オーストリアの協会法に基づき、副会長、書記、会計、監査役、陪席者などの12名で構成されており、それぞれ異なる職務を分担しています。同協会は非営利団体であり、その宣言する目的は、いかなる政党政治的影響も排除した府中市とヘルナルス区における友好の促進です。友好協会はヘルナルス区長と緊密に連携し、両者で活動計画について協議します。計画は区長の認可を経て、実施の運びとなります。中でも際立った企画は、府中市と府中国際友好交流会の協力を得て毎年行われている青少年ホームステイ派遣事業です。この活動には、ホストファミリーを探したり、日本の高校生たちを案内（ヘルナルス区内及びウィーン市内見学）したりすることも含まれています。

協会では、それ以外にも様々なイベントも企画します。例えば、友好協定締結20周年記念では行事の一環として、茶道、書道のデモンストレーション、特に子ども向けに折り紙講座を開催しました。また、様々なテーマの展示会を区博物館、区成人学校、エカツェント（EKAZENT、区のショッピングモール）で行いました。理事会メンバーが府中からの代表団のために公式行事以外のプログラムも用意していることはいうまでもありません。その際に中心となるものは、両市区の市民交流です。

また、協会会員が日本の文化に触れることができるような工夫も凝らしています。その関連では、メードリングのクーデンホーフ・カレルギー博物館、レオポルド美術館における「存在のはかなさ」展、ウィーン応用美術館での日本の木版画展など、博物館・美術館への訪問が行われました。そのほかにも、日本人監督による優れた映画を皆で一緒に観ようと、映画の夕べも催されました。ほとんどの協会会員たちは、すでにパートナー都市である府中市への旅行に参加したことがあるので、これらのオファーは喜んで受け入れられています。当ウェブサイトでは、協会の営みや主な活動分野を紹介しています。

ヘルナルス・府中友好協会が、今後も引き続きお互いの友好関係のために、掲げた目標を実現していくことができますよう、わたくしも願ってやみません。

ヘルナルス・府中友好協会副会長
ブリギッテ・ツェヒリンガー

茶道デモンストレーション（2012年6月）

子ども向けの折り紙講座（2012年6月）

書道デモンストレーション（2012年6月）

展示の準備

ヘルナルス・府中友好協会HP ▶